

AI・情報科学応用基礎教育パッケージ（情報科学部） 自己点検・評価報告書
（令和5年度実施分）

情報科学部自己点検・評価委員会

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	
学内からの視点	現状・結果について（教務委員会記入）	課題・改善に向けた意見（自己点検・評価委員会記入）
プログラムの履修・修得状況	<p>情報科学部教務委員会において、毎年度本プログラムの履修者数・単位修得状況・成績分布について分析を行い、本学部の全教員が参画する教授会・教員会において分析結果の報告及び改善のための意見交換を行っている。</p> <p>また、令和6年度からは特に単位の修得状況が芳しくない授業科目については、授業そのものに問題がないか等を含め教務委員会を中心に実情把握に努め、授業改善につなげていく予定である。</p>	<p>履修者数は、令和5年度からの学生定員増、及び選択必修科目である人工知能概論の履修時期の見直しに伴い大幅に増加している。また修得状況の改善についても対策を講じることとしており、今後はその効果についても期待したい。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムを構成する授業科目はすべてシラバスにおいて明確な到達目標が示されており、それに基づいて成績評価が行われている。また、上述のとおり教務委員会において、毎年度本プログラムの履修者数・単位修得状況・成績分布について分析を行い、本学部の全教員が参画する教授会・教員会において分析結果の報告及び改善のための意見交換を行っている。</p>	<p>教務委員会を中心とした学修成果の分析を、全構成員と共有し意見交換を行っている点は評価できる。今後は意見交換を踏まえた取組や改善結果等を踏まえ、さらなる学修成果の向上を目指していただきたい。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>学生の内容の理解度は、各授業科目について全学で実施する「学生による授業改善アンケート」で把握できる。授業中にも授業改善アンケートを回答できるようにする等、回答率向上の取組を進めることで、アンケート結果の精度を高める取組を進めている。</p>	<p>授業改善アンケートの回答率が低いため、回答率向上の取組を着実に取り組み、改善につなげる必要がある。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>全学で実施する「学生による授業改善アンケート」の結果（評価点の平均）は学内へ公開されており、満足度に関係する「授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。」「総合的に判断して、この授業に満足しましたか。」の質問項目の評価点が向上するような内容とするため、教務委員会及び教授会・教員会において改善に向けた分析・検討を行うこととしている。</p>	<p>今後、情報科学部生の本教育プログラム必修化を目指しているが、必修化した後も、学生の満足度を高める取組や後輩に履修して良かったと推奨するような魅力あるプログラムになるよう努めてほしい。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムは学部独自プログラムであることから、本学部の履修者数・履修率向上のため、新入生の段階からガイダンス等で数理・データサイエンス・AI教育の今後の重要性を説明し、履修者数・履修率向上を図っている。また、令和7年度からは本教育プログラムを構成するすべての科目を、本学部の必修科目とすることを検討しており、本学部の学生の履修率は100%になる。</p> <p>なお、本学では既に全学部生向けに「AI・データサイエンス応用基礎特定プログラム」が応用基礎レベルの認定を受けており、本学部以外の学生は上記特定プログラムを履修することで応用基礎レベルの教育プログラムを履修することが可能となっている。</p>	<p>令和7年度から情報科学部の学生は必修になるよう取り組んでおり、実現に向けた検討を期待する。</p>

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	
学外からの視点		現状・結果について（教務委員会）	課題・改善に向けた意見（自己点検・評価委員会）
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		令和4年度開設のため修了者がまだ出ていないが、本プログラム修了者に対して、卒業時アンケート等で、履修した内容が進路に役に立ったか等を調査し、分析することで、次年度の授業改善に活用する。 また、情報科学部では、実践・実務科目で実際にDX業務を行っており、企業人の方を講師として迎えるなど、産業界とのつながりも深いことから、企業の講師等との意見交換を通じた教育プログラムの改善を行う。	特になし。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		上述のとおり、情報科学部では、実践・実務科目で実際にDX業務を行っており、企業人の方を講師として迎えるなど、産業界とのつながりも深いことから、随時企業の講師等との意見交換を通じた教育プログラムの改善を行う。	今後の取組予定にもあるように、今後は企業の講師等学外の意見も積極的に教育プログラムの見直しに取り入れられるよう、努めてもらいたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本教育プログラムは、本学部の教育課程と連動しているため、情報科学分野における学びの深まりと合わせて学習を進めることができる。また、本学部では本教育プログラムで展開する授業科目よりも高いレベルの内容を扱う授業科目であるため、より深く学びたいと思う学生へのニーズにも対応できる形となっているおり、学生にとって学ぶ意義を感じやすい構成となっている。 学生からは、「学生による授業改善アンケート」の満足度に関する「授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。」「総合的に判断して、この授業に満足しましたか。」の質問項目の評価点で把握し、授業改善を図っている。	特になし。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		自己点検・評価として、授業科目ごとに学生の授業改善アンケート結果を行っているだけでなく、毎年度情報科学部教務委員会が中心となって各授業科目の成績分布等を含めて一つの授業を分析し、本学部のすべての教員が参画する教授会・教員会において情報共有し、意見交換する機会を設けることで、学生にとってより分かりやすい授業となるよう改善に取り組んでいる。	より「分かりやすい」授業とするよう組織的に取り組んでいる点は評価できる。今後は、社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて、継続的に教育内容を見直すなど、改善を続けていただきたい。